

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年度、CASBEE-建築(新築)2016年度 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 カネカ旭ヶ丘倉庫	階数	地上1F
建設地	埼玉県日高市大字旭ヶ丘字竹の台	構造	S造
用途地域	市街化調整地域、防火指定なし	平均居住人員	4 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,200 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年5月20日
敷地面積	5,967 m ²	作成者	
建築面積	2,010 m ²	確認日	2024年5月20日
延床面積	2,047 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.4 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 BEE = 環境品質 Q / 環境負荷 L 34 0.4 69	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ 0 100% #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.4	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2	
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性	
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー LR1のスコア= 0.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.1	
建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	水資源 非再生材料の 汚染物質	地球温暖化 地域環境 周辺環境	

3 設計上の配慮事項		
総合 建物の周囲を緑地にしました。		その他 0
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 建築基準法に定められた耐震性を有する。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を多く配置した。
LR1 エネルギー 照明器具: LED照明器具を多く取り入れた。	LR2 資源・マテリアル 主要構造躯体 鉄骨構造	LR3 敷地外環境 指導された規模の雨水流出抑制対策を実施している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと19.56■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
株式会社 カネカ旭ヶ丘倉庫

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼:

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 基本設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.3
Q1 室内環境						-
1 音環境				-	-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-	-
1.2 遮音				-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-
1.3 吸音				-	-	-
2 温熱環境				-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-
1 室温				-	-	-
2 外皮性能				-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-
3 光・視環境				-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-
1 昼光率				-	-	-
2 方位別開口				-	-	1.0
3 昼光利用設備				-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-
1 昼光制御				-	-	-
3.3 照度				-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-
4 空気質環境				-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-
4.2 換気				-	-	-
1 換気量				-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	2.4
1 機能性				-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-
3 バリアフリー計画				-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-
3 内装計画				-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.2	0.50	2.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.2	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				2.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.30	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔				3.0	0.20	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				2.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-
2.4 信頼性				1.4	0.20	-
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20	-
3 電気設備				1.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-
5 通信・情報設備				1.0	0.20	-

3 対応性・更新性			2.7	0.50	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり			2.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.2
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		[BE][BEIm] = -	-	-	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	2.3
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			1.9	0.20	-	-	1.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			1.5	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.50	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	2.1
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			1.9	0.50	-	-	1.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.3	0.50	-	-	2.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			2.0	0.40	-	-	
1	騒音		1.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■ 使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

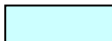
建物名称	株式会社 カネカ旭ヶ丘倉庫	BEE	0.4	BEEランク	★
------	---------------	-----	-----	--------	---

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
0.0	+	1.3	=	1.3
				
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	0.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	0.0
<配慮した内容を記述>			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	1.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	1.0
<配慮した内容を記述>			

 : 入力欄